

公立学校共済組合病院 グループ型後期臨床研修医募集要項

平成22年度版

公立学校共済組合	東北中央病院
公立学校共済組合	北陸中央病院
公立学校共済組合	関東中央病院
公立学校共済組合	四国中央病院

目 次

① 概 要	(3)
② コ ー ス 内 容	(5)
③ 各 病 院 概 要	(7)
④ 研 修 カリキュラム	(8)

①概要

目 的	<p>公立学校共済組合が運営する8つの病院は東北地方から九州地方まで日本各地に設置されており、約50年の歴史がある。</p> <p>公立学校共済組合員及び家族(以下:組合員)の健康を確保するための健診事業、メンタルヘルス事業に取り組む一方、地域の中核病院の役割も果たしている。</p> <p>これら全国各地で蓄積された高度な医療資源を活用し、レベルの高い医療者の育成に貢献することを目的として全国の病院が協同して後期研修医の教育を行う。</p> <p>従来より行ってきた関東中央病院でのみ研修する単独型コースに加えて大都市の病院と地方の病院の2病院または3病院で研修するグループ型コースを新設し、急性期・高度医療・地域医療・専門医のための専門医療を多面的に研修させる。</p> <p>若い臨床研修医の時期に環境も機能も異なる大都市と地方の2病院または3病院で研修することは、医師としても、社会人としても得難い経験になる。</p> <p>この度、平成16年度より初期研修制度が新たに開始されたことに伴い、シニアレジデントの研修内容を一部変更し、専攻しようとする科目、並びにその関連領域についてさらなる技術を修得させることを目的として、グループ型後期研修医(シニアレジデント)を公募することとした。</p>
募 集 コー ス	<ul style="list-style-type: none"> ・循環器内科コース ・消化器内科コース ・代謝内分泌内科コース ・外科コース
採 用 人 数	各コース 若干名
応 募 資 格	<p>平成22年3月に初期臨床研修を終了見込みの方</p> <p>もしくは医師国家試験に合格し、2年間以上の臨床研修を終了した方</p>
選 考 方 法	書類審査・事前課題・面接
選 考 試 験 日	<p>平成22年1月より順次行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・試験日は、募集コースによって異なる。 ・日時等は、応募者に通知する。
申 込 方 法	<p>次の書類を申し込み期限までに郵送</p> <ul style="list-style-type: none"> (1)履歴書(所定様式) (2)医師免許証の写し (3)臨床研修教育責任者による推薦状 (4)研修修了証明書(修了見込み可) (5)大学の卒業証明書(卒業証書の写しで可)

	(6)健康診断書(所定様式使用。ツ反は必ず実施のこと。3 ヶ月以内に診断したもの) (7)保険医登録票の写し (8)事前課題(所定様式)
申 込 期 限	平成21年12月25日(金)必着
合 格 発 表	選考日以降1ヶ月前後で、本人あてに郵送により通知する
研 修 期 間	3年間 研修開始日は、平成22年4月1日よりとする
書 類 提 出 先	〒158-8531 東京都世田谷区上用賀 6-25-1 公立学校共済組合関東中央病院 総務課臨床研修・研究推進係 「グループ型後期研修医採用試験応募書類在中」と記載のこと
採用後の処遇	(1)身分: 常勤職員(東北中央病院・北陸中央病院・四国中央病院) 非常勤職員(関東中央病院) (2)給与: 常勤職員 月額基本給 289,950 円～(経験年数による) 年収約 800 万円～(経験年数による、手当含む) 非常勤職員 月額基本給 286,500 円～(経験年数による) 年収約 650 万円～(経験年数による、手当含む) 諸手当: 当直手当(各病院規程による) 住宅手当(各病院規程による) 超過勤務手当(各病院規程による) (3)社会保険等: 政府管掌保険、厚生年金、雇用保険に加入
お 問 合 せ 先	公立学校共済組合関東中央病院 総務課臨床研修・研究推進係 浅野晋一 Tel 03-3429-1171 (内線)2106 e-mail s-asano@kanto-ctr-hsp.com

②コース内容

※ 各病院を回る順序・年数は相談に応じる。

循環器内科コース

研修病院名：東北中央病院・関東中央病院

A・東北中央病院・関東中央病院での研修

例	1年目	関東中央病院	循環器内科
	2年目	東北中央病院	循環器内科
	3年目	関東中央病院	循環器内科

消化器内科コース

研修病院名：東北中央病院・関東中央病院・四国中央病院

A・関東中央病院・東北中央病院での研修

例	1年目	関東中央病院	消化器内科
	2年目	東北中央病院	消化器内科
	3年目	関東中央病院	消化器内科

B・関東中央病院・四国中央病院での研修

例	1年目	関東中央病院	消化器内科
	2年目	四国中央病院	消化器内科
	3年目	関東中央病院	消化器内科

C・関東中央病院・東北中央病院・四国中央病院での研修

例	1年目	関東中央病院	消化器内科
	2年目	東北中央病院	消化器内科
	3年目	四国中央病院	消化器内科

代謝内分泌内科コース

研修病院名：北陸中央病院・関東中央病院

A・関東中央病院・北陸中央病院での研修

例	1年目	関東中央病院	代謝内分泌内科
	2年目	北陸中央病院	内科(糖尿病)
	3年目	関東中央病院	代謝内分泌内科

外科コース

研修病院名：東北中央病院・北陸中央病院・関東中央病院・四国中央病院

A・ 関東中央病院・東北中央病院での研修		
例.	1年目	関東中央病院 外科
	2年目	東北中央病院 外科
	3年目	関東中央病院 外科
B・ 関東中央病院・北陸中央病院での研修		
例.	1年目	関東中央病院 外科
	2年目	北陸中央病院 外科
	3年目	関東中央病院 外科
C・ 関東中央病院・四国中央病院での研修		
例.	1年目	関東中央病院 外科
	2年目	四国中央病院 外科
	3年目	関東中央病院 外科
D・ 東北中央病院・北陸中央病院・関東中央病院・四国中央病院での研修		
例.	1年目	東北・北陸・関東・四国中央病院のいずれか 外科
	2年目	東北・北陸・関東・四国中央病院のいずれか 外科
	3年目	東北・北陸・関東・四国中央病院のいずれか 外科

③各病院概要

東北中央病院

- 1. 住 所 : 〒990-8510 山形県山形市和合町3丁目2番5号
- 2. 電 話 : 023-623-5111
- 3. F A X : 023-622-1494
- 4. ホームページアドレス : <http://www.tohoku-ctr-hsp.com/>
- 5. 病 床 数 : 252床 (一般217床・人間ドック35床)

北陸中央病院

- 1. 住 所 : 〒932-8503 富山県小矢部市野寺123
- 2. 電 話 : 0766-67-1150
- 3. F A X : 0766-68-2716
- 4. ホームページアドレス : <http://www.kouritu.go.jp/hospital/hokuriku/>
- 5. 病 床 数 : 199床 (一般169床・ドック30床)

関東中央病院

- 1. 住 所 : 〒158-8531 東京都世田谷区上用賀6-25-1
- 2. 電 話 : 03-3429-1171(代表)
- 3. F A X : 03-3426-0326
- 4. ホームページアドレス : <http://www.kanto-ctr-hsp.com/>
- 5. 病 床 数 : 470床 (一般383床・ドック31床・ICU 6床・精神50床)

四国中央病院

- 1. 住 所 : 〒799-0193 愛媛県四国中央市川之江町2233番地
- 2. 電 話 : 0896-58-3515
- 3. F A X : 0896-58-3464
- 4. ホームページアドレス : <http://www.shikoku.ne.jp/ctr-hsp/>
- 5. 病 床 数 : 259床 (一般185床・ドック24床・精神50床)

④研修カリキュラム

東北中央病院

【循環器内科】後期臨床研修プログラム

1. 当院循環器内科について

当院循環器科は現在日本循環器学会認定循環器専門医認定施設、日本超音波学会認定超音波研修施設に認定されています。また日本内科学会認定内科医研修関連施設に認定されています。現在日本循環器学会認定循環器専門医1名、日本超音波学会認定超音波専門医(指導医の兼務)1名、日本心血管カテーテル学会認定医1名、指導医が1名が常勤として勤務しています。循環器疾患の重要性はメタボリック症候群に対する厚生労働省の取り組み方をみていただければわかるように、虚血性心疾患発症予防の重要性、同疾患に対する内科的治療、インターベンショナル治療の需要も増加しています。

当院循環器科では、常勤医が現在2名ですが、年間500例前後の心臓カテーテル検査を施行し、PCI、ペースメーカー植え込み手術、カテーテルアブレーション、下肢血管形成術なども行なっています。特に冠動脈造影、PCIにおいては、県下の他の病院に先駆けて撓骨動脈アプローチ(TPA)法を導入しています。ほとんどの冠動脈造影、PCIはTRAで施行しています。

他に超音波検査においては、ソノグラファー(日本超音波学会認定超音波検査士)が多く勤務しております。経胸壁心エコー、経食道心エコー検査、頸部超音波検査、トレッドミル検査他、生理検査のほとんど全てを施行できる体制になっています。

一般臨床研修を終了し、後記研修として、上述の生理検査はもちろんのこと、心臓カテーテル検査を修得していただくための指導を積極的に行なっています。学会、研究会における発表にも積極的に参加していただきます。

2. 指導スタッフ

金谷循環器科部長、桜井循環器科医長の2名が指導に当たります。

3. 経験する症例

原則循環器疾患ほとんど全てですが、当科・当地の特徴もあり、主として高血圧症、不整脈関係、虚血性心疾患、脳血管疾患の症例を多く経験していただくことになると思います。当院放射線科医師と協同でのカテーテルインターベンション治療にも参画していただきます。

研修の詳細は日本循環器学会循環器専門医の研修プログラムに原則として準拠し行います。

4. 臨床デューティ・カンファレンスなど

毎朝回診、毎週火曜日夕方のカテーテルミーティング、月数回の循環器用薬剤勉強会、学会、研究会発表の練習会など。

外来は週2回参加していただき、指導医から指導をうけていただきます。

なお、平成19年7月から心臓カテーテル検査室が新しくなり、全てデジタル化し、フラットパネル型の心血管撮影装置となります。

5. 研修時のおおまかなスケジュール

曜日	午前	午後
月曜	病棟	トレッドミル 経食道心エコー
火曜	外来	心カテ カテミーティング
水曜	外来	トレッドミル 経食道心エコー
木曜	心エコー検査	外来
金曜	心カテ	心カテ

【消化器内科】後期臨床研修プログラム

1. 基本目標

- (1) 消化器内科医に求められる基本的な診療知識・手技を習得する。とくに、内視鏡検査(治療内視鏡を含む)手技の習得を目指す。
- (2) 高頻度、緊急を要する消化器疾患を多数経験し、病態把握能力を養う。
- (3) 日本内科学会・認定内科医、日本消化器病学会・専門医、日本消化器内視鏡学会・専門医の習得を目指す。

2. 診療科概要

当科は外科、放射線科、病理と緊密な連携をとりながら消化器全般にわたって診療を行っている。特にX線、内視鏡を駆使して癌の的確かつ迅速な診断に努め、早期癌に対しては積極的に内視鏡的切除を行い、肝・胆膵疾患や炎症性腸疾患の治療にも力を入れている。下部消化管疾患の診断・治療を専門とするスタッフがおり、内視鏡的大腸粘膜切除術・切開剥離術にも十分な経験を有し、症例も多い。

内視鏡検査は、年間件数は約 6500 件(上部約 3500 件、下部約 3000 件)である。

最新の機器整備のもと、高度な診断、治療手技を展開しており、消化管、肝臓、胆膵それぞれの領域について、指導医が指導を行う。

3. 取得可能認定医専門医

日本内科学会・認定内科医
日本消化器内視鏡学会・専門医
日本消化器病学会・専門医

4. 指定研修施設の名称

日本内科学会認定教育施設
日本消化器病学会認定医制度関連施設
日本消化器内視鏡学会認定指導施設

5. 研修プログラム

消化器病診療および経験できる諸検査に関しては、
日本消化器病学会の消化器病専門医カリキュラムに準じて行う。(参考資料参照)

- ・上下部内視鏡(術者として計 200 例以上)、消化管透視、腹部USの基本手技、CT、MRI等の画像診断の習得。
- ・ERCP、EIS等の内視鏡応用手技の介助を習得する。
- ・EMR、ERCP、EUS、肝生検、RFA、EIS、EVL、または腹部血管造影、TAEなどの各種IVRの特殊検査・治療の術者としての基本的事項を習得する。
- ・緊急内視鏡に術者として対応できるレベルを目指す。
- ・内視鏡的胆道ドレナージ、ESDなどの高度な治療手技の習得を目指す。
- ・手術症例の病理所見と画像の比較検討。
- ・病棟では指導医とともに、各種消化器疾患に関する専門的知識、技能を習得する。さらにスタッフの一員として、グループ診療・治療を行う。
- ・DDW等の全国学会にて臨床研究の発表。
- ・臨床研究論文の作成を目指す。病棟では、指導的な立場で初期研修医の教育に関わる。

6. 週間スケジュール

曜日	午前	午後	その他
月曜	上部消化管内視鏡 大腸内視鏡	大腸内視鏡 (人間ドック)	
火曜	上部消化管内視鏡 大腸内視鏡	ERCP EST	外科・内科合同 カンファランス (8:30am)
水曜	大腸治療内視鏡	上部消化管治療内視鏡 大腸内視鏡 (人間ドック)	
木曜	上部消化管内視鏡 大腸内視鏡	ERCP EST	
金曜	上部消化管内視鏡 大腸内視鏡	大腸内視鏡 (人間ドック)	

7. スタッフ

	氏 名	資 格
部長	齋藤 秀樹	日本内科学会認定専門医・指導医 日本消化器病学会専門医 日本消化器内視鏡学会専門医・指導医 日本抗加齢学会専門医
医長	石濱 活義	日本内科学会認定医 日本消化内視鏡学会専門医
医長	伊藤 ななみ	
医長	宇賀神 智	日本内科学会認定医 日本消化器病学会専門医

(全員所属医局は山形大学第二内科)

※参考資料

参考資料.pdf

日本消化器病学会専門医研修カリキュラム抜粋

<http://www.jsge.or.jp/member/nintei/curriculum.html>

【外科】後期臨床研修プログラム

1. 後期研修の目的と当院外科の概要

臨床医にとって必要な一般外科学における知識を学び、問題解決のための科学的思考力と基本的診療技術を習得する。外科診療チームの一員として、協調して全人的医療が実践出来ることを目標とする。

将来、外科専門医を標榜する医師が、卒後初期研修後に専門医資格習得に必要な要項を充足できることを目的とした修練カリキュラムであり、外科専門医認定に必要な一般目標および到達目標を充たすとともに、さらに消化器外科の専門化された外科サブスペシャリティへの修練をも兼ねている。

当院外科は、東北大学第一外科（現消化器外科、肝胆膵外科）の関連施設であり、日本外科学会の関連認定施設として、臨床研修の場を提供することが可能である。

現在の手術状況は、胆道系疾患はもちろん早期胃癌、大腸癌のほとんどの症例に腹腔鏡手術を施行しており、腹腔鏡手術の修練にも適している。

また、乳癌の診療は年間約 3000 例の乳癌検診を行っており、スタッフ全員がマンモグラフィ読影研修を受けた有資格者(A 判定 2 名、他 B1 判定)であり、手術は約 80%に温存手術を行い、LTF(lateral tissue flap)を用いた形成術を行っている。

2. 指導体制

外科指導医5名

	氏 名	資 格
部長（副院長）	斎藤 善広	日本外科学会専門医 日本消化器外科学会認定医・専門医 日本乳癌学会認定医
医長	武藤 大成	日本外科学会専門医 日本消化器外科学会専門医
医長	浅沼 拓	日本外科学会専門医
医長	堀越 章	日本外科学会専門医
医長	土原 一生	日本外科学会専門医

3. 一般目標と到達目標

社団法人「日本外科学会」外科専門医修練カリキュラムに準じる。

4. 教育関連行事

曜日	
毎週 火曜	内科外科合同カンファランス、マンモグラフィ読影
毎週 金曜	外科ミーティング、マンモグラフィ読影

他 CPC、救急カンファランス、病診連携勉強会等は医局全体の会に参加。

北陸中央病院

【内科(糖尿病専門医コース)】 後期臨床研修プログラム

<初年度>

外来診療に関しては、日本糖尿病学会より出版されている「糖尿病治療の手引き」に基づき、基本的な糖尿病診療が行えることに主眼をおいている。入院診療に関しては、糖尿病指導医の直接指導下において糖尿病教育入院の主治医を遂行し、病歴総括を完成させることに努めている。

具体的に以下の点を到達目標としている。

1. これまでの生活習慣、体重の推移、診断までの症状、診断後の治療状況等、現病歴を詳細に聴取しまとめること。
2. 一般内科的な身体所見に加えて、特に腎症、神経障害、足病変、爪病変などの合併症による身体所見が取れること。
3. 糖尿病の診断基準及び病型とそれらに必要な臨床検査を理解し、臨床応用できるようになること。

糖負荷試験、簡易血糖・ケトン体測定、血糖日内変動、尿中 C-ペプチド、糖尿病関連自己抗体、内分泌疾患によってもたられる二次性糖尿病のスクリーニング検査等。

4. 合併症の診断、分類と必要な臨床検査の施行と解釈
尿中微量アルブミン、蛋白定量、クレアチニンクリアランス、心拍変動係数、起立性低血圧、眼底写真の見方、運動負荷心電図検査、負荷心筋シンチグラフィー等。
5. 臨床診断に基づいた基本的な治療
 - (1) 食事療法：食品交換表の理解と実践指導
 - (2) 運動療法の適応と実践指導：エルゴメータなどの運動処方
 - (3) 経口血糖降下剤の理論を理解し、実施、その治療効果、副作用などを体得する。
 - (4) 2型および1型糖尿病の基本的なインスリン注射療法の理論を理解・実践し、その治療効果などを体得し患者指導を行う。
 - (5) 低血糖とシックデイの理解と指導

<2年度>

重篤な急性・慢性合併症を有する糖尿病患者の診療経験を深め、他科の医師と連携して診療を行うことができることを研修の主眼とする。進行した網膜症に対して、硝子体手術が必要な症例を経験し、眼科医師との連携で周術期の血糖や内科管理を行ったり、糖尿病を合併した患者の手術において外科・整形外科などの他科医師との連携で血糖管理を行う。基本的診療技能に加えて、指導医下に人工臓器を用いたインスリン抵抗性の評価やグルカゴン負荷試験等糖尿病専門的検査と治療にも参加し、手技の習得、理論と実践を深める。

さらに、当科において患者教育として行なわれている糖尿病教室やクリニカルパス入院の医師指導部分を担当し、患者教育の意義を深め実践指導を行う。

1. 1型糖尿病・妊娠糖尿病を中心にインスリン強化療法の理論と実践
2. 糖尿病性高血糖性昏睡、低血糖性昏睡の診断、治療の実践

3. 進行した網膜症、腎症、神経障害の治療理論と実践。特に硝子体出血、緑内障、有痛性神経障害、単神経障害、ネフローゼ、慢性腎不全、透析療法などの症例を多く経験する。
4. 周術期や高カロリー輸液時、重症感染症症例の血糖・糖尿病管理
5. 指導医の下で専門的検査、治療に参加し理論と実践を習得する
人工臓器によるインスリン抵抗性の評価、グルカゴン負荷試験、頸動脈超音波法による動脈硬化評価

<3年度>

2年度における研修カリキュラムをさらに発展させるとともに、3年度は患者教育および診療上のシステム改善のために、コメディカルスタッフ相互の連携を密にし、チーム医療を推進する役割を果たせるようにすることに主眼をおく。

1. 病棟診療のみならず指導医下で糖尿病および関連の専門外来を行う。
2. 2ヶ月毎に開催されている糖尿病教育スタッフミーティングにおいて、指導的役割を果たせるようになる。
3. 糖尿病専門医として他科医師からのコンサルテーションが十分できるようになる。
4. 患者教育について、当院の糖尿病患者の会である『メルヘン糖友会』は年2回例会が持たれ、医師による講演、患者さんの体験発表、栄養士による昼食会がありこれに参加する。
日本糖尿病協会の教育活動などにも積極的に参加し、その意義を理解する。
5. 臨床研究の視点を持ち、糖尿病学会や中部地方会、糖尿病学の進歩や関連学会に参加し研究発表を行い、意見を受ける。

【指導体制】

	氏 名	資 格
病院長	宮元 進	日本内科学会認定医 日本糖尿病学会指導医 日本糖尿病学会認定医・専門医 日本医師会認定産業医
第二内科医長	大家 理恵	日本内科学会認定医
内科医員	杉原 雅子	日本糖尿病学会専門医 日本内科学会認定医 日本医師会認定産業医

【認定施設】

日本糖尿病学会認定教育施設

【外科】後期臨床研修プログラム

1. 後期研修の目的と当院外科の概要

一般・消化器外科医としての診療技術を習得・実践し、診療チームの一員として協調できる勤務医となれるように支援します。

当院外科では、研修により外科専門医の資格を得ることができます。また、金沢大学心肺・総合外科の協力を得て、幅広い外科分野の修練を行うことができます。

当院では、年間約 180 件(平成 20 年度)の手術を行い、うち全身麻酔は麻酔科専門医のもとに約 100 件行い、胃・大腸癌手術、腹腔鏡下(または開腹)胆嚢摘出術などが多く、乳腺、甲状腺手術、肝切除術、脾切除術、呼吸器手術(胸腔鏡下手術、肺切除術)、虫垂切除術、腸閉塞手術、肛門手術などを行っています。

当院内視鏡センターにおける内視鏡検査・手術件数は約 6,200 件(平成 20 年度)実施し、概数で上部消化管 4,200 件、大腸 1,900 件であり、内視鏡的ポリープ切除術を約 100 件施行しております。内視鏡センターでは、内科・外科が協力して診療を行っており、当院外科には、大腸がん検診の豊富な経験と長い歴史があり、大腸がん診療の基本的な修練を行うことができます。

2. 指導体制

外科指導医3名

	氏 名	資 格
健康管理科部長	岩瀬 孝明	日本外科学会専門医・指導医 日本消化器病学会専門医 日本消化器内視鏡学会専門医 日本消化器外科学会認定医
外科部長	亀水 忠	日本外科学会専門医・指導医 日本消化器病学会専門医 日本消化器内視鏡学会専門医 日本消化器外科学会認定医
外科医長	中田 浩一	日本外科学会専門医 日本消化器内視鏡学会専門医 日本消化器病学会専門医

3. 一般目標と到達目標

社団法人「日本外科学会」外科専門医修練カリキュラムに準じる。

4. 教育関連行事

曜日	
毎週水曜	内視鏡カンファレンス(消化器内科と合同)
毎週金曜	外科手術カンファレンス(放射線医と合同)
第二・四 水曜	病棟カンファレンス(病棟看護師と合同)

他、ERカンファレンス、学術講演会(病診連携)、地域勉強会などに参加

【認定施設】

日本外科学会外科専門医制度修練(指定)施設	第160018号
-----------------------	----------

関東中央病院

【循環器内科】後期臨床研修プログラム(腎臓内科含む)

公立学校共済組合関東中央病院の後期研修カリキュラムは、日本循環器学会認定の「循環器専門医研修カリキュラム」に準じる。

循環器専門医研修カリキュラムの中で、当院でできない検査法および治療法は、殆どが C もしくは D ランクのものであり、循環器専門医を目指す後期研修には十分な体制がとられていると考える。

病態・疾患の項目でも、先天性心血管系奇形の一部領域で経験できない症例もあるが、A・B ランクの病態・疾患は 1 年間の研修期間中に経験可能である。

後期研修の期間は卒後3年目から5年目までであるが、年度ごとにどこまで到達するかという取り決めは設けていない。循環器系の検査や治療は、まず見学、その次に助手、最後に術者というステップで進行する。積極的に検査室に顔を出していれば経験できる検査数は増加する。また、循環器疾患の救急が来た場合、常に急患室に行くように心がけていれば、それだけ症例数も増加する。

当科での後期研修を有意義に行えるか否かは、本人の努力しだいである。研修医の努力に応える体制は十分に整っている。

参考までに平成20年度の疾患数と検査数を示す。

疾患	症例
総数	698
高血圧症	1
急性心筋梗塞	50
その他の虚血性心疾患	276
心筋疾患	20
弁膜症	22
肺性心(含肺塞栓)	9
神経循環無力症・胸痛症候群	1
不整脈	113
その他の心疾患	4
脳血管障害	2
その他の血管疾患	72
腎疾患	62
その他	66

検査	例数
総力ターテル	517
経皮的冠状動脈形成術	185
電気生理学的検査	20
体外ペーシング	22
ペースメーカー植え込み	48
マスター二階段	101
トレッドミル	264
ホルター心電図	725
心エコー図	2462
心臓核医学	625

腎臓内科

【診療科概要】

当院腎臓内科では、慢性・急性糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、腎不全・慢性透析療法まで、広範囲にわたる腎疾患の診療を行っている。さらに、当院は、世田谷区最大の総合病院であり、急性期疾患を扱う地域基幹病院であるため、各診療科とも救急医療に力を入れている。このため急性腎不全、心不全の症例も多く、これらに対応すべくICUでの緊急血液浄化も行っている。これらの症例を経験することは腎臓内科の習得のみならず、全診療科で将来遭遇するであろう体液異常の診断、治療に役立つことだろう。

当院で頻度の高い血液浄化は、血液透析、CHDF、血漿交換、白血球吸着、LDL 吸着、エンドトキシン吸着、などである。

設備: 血液透析(血液浄化室) 10 床

血液透析濾過機(ICU) 2 台

実績: 透析導入 40 例/年

【プログラム内容】

1) 腎疾患の診断・治療の習得

腎炎、ネフローゼ症候群、腎不全、高血圧、糖尿病、膠原病などの診断・治療。

2) 保存期腎不全患者の管理方法の習得

保存期腎不全患者において、腎機能増悪を抑制し合併症を予防するためのマネジメント方法の習得。

3) 透析療法の習得

透析患者のインフォームドコンセントの取得、アクセス作成から導入、維持期の管理法の習得。透析合併症の予防・早期診断・治療法習得。

4) その他の血液浄化療法

急性腎不全のみならず、心不全、多臓器不全、SIRS、急性膵炎などICU・救急領域における血液浄化療法の習得。また消化器疾患、神経疾患などに対する血漿交換、血液吸着などを習得。

5) 経皮的腎生検術

【指導体制】

	氏名	資格
部長	野崎 彰	日本内科学会認定内科医 日本循環器学会認定循環器専門医 身体障害者認定医（心臓機能障害の診断）
医長	池ノ内 浩	日本内科学会認定内科医・専門医 日本循環器学会認定循環器専門医 日本心血管インターベンション学会指導医
医長	伊藤 敦彦	日本内科学会認定内科専門医 日本循環器学会認定循環器専門医
医長	田部井 史子	日本内科学会認定内科医・専門医 日本循環器学会認定循環器専門医
医長	杉下 靖之	日本内科学会認定内科医・専門医 日本循環器学会認定循環器専門医

【認定施設】

認定	認定番号
日本内科学会認定医制度教育病院	第133号
日本循環器学会認定循環器専門医研修施設	第0035号
日本心血管インターベンション学会研修関連施設	第05-03-067B号

【消化器内科】後期臨床研修プログラム

対象：初期臨床研修を終了したか、平成21年に終了見込みの者で、消化器病学を学ぶ意欲のあるもの

消化器内科シニアレジデント1年目

1. 主治医の指導下で、担当医として(単独または研修医とのペアで)入院患者(主として消化器疾患：肝・胆・膵・消化管疾患)の診療にあたる。(10-15 例程度を担当、1年間に担当する患者は 150-300 例程度となる)
2. 外来診療(内科新患外来 0.5-1 回/週、消化器内科再来 0.5-1 回/週、救急当番 1-2 回/月)、内科当直 3-4 回/月などを担当する
3. 指導医・専門医の指導下に、内視鏡検査、X 線検査、超音波検査を習得し、それに関連した治療手技を習得する(H16 年度は 4 名のレジデントが各人、上部消化管内視鏡 400 件/年前後、下部消化管内視鏡 50-100 件/年、ERCP20-40 件/年を経験。その他、担当症例により、PEG、EVL、止血術、EPBD、PTCD、RFA などを経験している。)
4. 本人の希望があり、状況が許せば、短期間他科での研修が可能

消化器内科シニアレジデント 2 年目・3 年目

1 年目よりもさらに高度な知識・技術を習得することができる

消化器内科シニアレジデント修了者はこれまではほとんどが消化器内科大学院に進学している。

【指導体制】

	氏名	資格	
部長	川瀬 建夫	日本消化器内視鏡学会専門医、日本肝臓学会専門医 日本内科学会認定内科医・指導医	指導医
内視鏡室長	松川 滋夫	日本消化器内視鏡学会認定医	指導医
医長	小池 幸宏	日本肝臓学会専門医 日本がん治療認定医機構認定がん治療認定医	指導医
医長	渡邊 一宏	日本消化器内視鏡学会指導医 日本消化器内視鏡学会関東支部評議員	指導医
医長	松原 三郎	日本消化器病学会専門医	指導医

【認定施設】

認定	認定番号
日本内科学会認定医制度教育病院	第133号
日本消化器病学会専門医制度認定施設	第0093号
日本消化器内視鏡学会認定指導施設	20050038号
東京都肝臓専門医療機関	Tk1311213 号

【代謝内分泌内科】後期臨床研修プログラム

1. プログラムの目的と特徴

一般臨床研修を終了し、基礎的診療能力を有する内科医師を対象に、1～3 年間にわたる後期研修を実施し、生活習慣病として社会的に大きな問題となっている糖尿病、高脂血症、高血圧、肥満そしてそれらの合併症の評価および管理、各種の内分泌疾患などの診療を中心に、基本的な診療技術、Problem Oriented System (POS)に従って病歴、身体所見、検査データからプロブレムを挙げ、系統立てて鑑別診断を進める能力、Evidence Based Medicine (EBM)を実践する能力を養い、最新・最良の糖尿病診療を行える医師の育成を目的とする。さらに、症例報告や臨床研究の能力の養成も同時に目指し、学会発表、論文作成を積極的に指導する。糖尿病診療および経験できる諸検査に関しては、日本糖尿病学会の糖尿病専門医カリキュラムに準じて行う。(参考資料参照)

当科の特徴は、糖尿病の他、骨代謝や甲状腺、内分泌学および老年医学も専門とするスタッフが在ることであり、骨粗鬆症や副甲状腺疾患の診療にも十分な経験を有し、また高齢者のケア、高齢者の糖尿病治療には老年医学的観点から CGA(高齢者総合的機能的評価)などを用いた治療方針の決定を行っている。

当科は、現在日本糖尿病学会の研修指定施設を休止中であるが、2009年度中に同指定施設に復するべく申請準備中である。現在は、日本内科学会、日本老年病学会の認定研修施設でも有る。

2. 指導スタッフ

	氏名	資格
部長	水野 有三	日本内科学会認定総合内科専門医・認定内科医・指導医 日本糖尿病学会認定専門医 日本老年医学会認定老年病専門医・指導医
医長	宮尾 益理子	日本内科学会認定内科医 日本糖尿病学会認定専門医・指導医 日本老年医学会認定老年病専門医・指導医 日本内分泌学会認定内分泌代謝専門医
医長	竹下 雅子	日本内科学会認定総合内科専門医 日本内分泌学会認定内分泌代謝専門医

その他、上級レジデント(若干名)も適宜指導にあたる。

3. 経験する症例

糖尿病患者としては、重篤な合併症を有する症例を経験し、腎不全例では透析導入を、下肢壊疽では必要に応じて切断術の周術期管理を担当する。糖尿病昏睡、妊娠糖尿病、手術患者の周術期血糖コントロール、各種の 1 型糖尿病などの管理を経験する。なお、下垂体、甲状腺、副甲状腺、副腎などの内分泌疾患においては、初期研修において経験できなかった症例を優先的に受持、疾患の知識を深める事とする。糖尿病学の後期研修としては、日本糖尿病学会の糖尿病専門医カリキュラム(別紙)に準じて行っており、順次必要な経験症例数を3年間のうちに蓄積する。ただし、後期研修の1～2年次から大学院などに入学する場合や他病院に移る場合は、残りの必要症例は、転籍先の病院にて引き続き経験する様に努力する。

4. 臨床デューティ、カンファランスなど

週 1～2 コマの代謝内分泌科専門外来(糖尿病外来、甲状腺外来)を担当する他、糖尿病教育入院の講義を 1 コマ担当する。病棟カンファランスと抄読会は毎週火曜日、病棟回診は毎週木曜日に行い、積極的に参加する。

当科は、院外行事にも積極的な参加を奨励している。老年医学会総会、地方会、日本糖尿病学会総会、地方会、日本内科学会地方会、日本内分泌学会などへの参加、研究発表を積極的に行っている。その他、他施設と合同で、糖尿病症例検討会、臨床内分泌症例検討会などに参加、発表している。努力次第で、海外の学会等への発表の機会も当然与えられる。

5. 甲状腺の超音波検査現在検討中の事項

甲状腺の超音波検査は胸部外科および当科(竹下医長)が、担当している。糖尿病診療の基本を習得した後、希望があれば、後期研修の一環として、甲状腺超音波検査、甲状腺生検手技の指導が受けられる。

6. (参考資料 pdf) 日本糖尿病学会の糖尿病専門医カリキュラム <http://www.jds.or.jp/>

【認定施設】

認定	認定番号
日本内科学会認定医制度教育病院	第133号
日本老年医学会認定施設	第103041号
日本糖尿病学会認定研修施設	第126号

【外科】 後期臨床研修プログラム

外科後期研修プログラム

1. 後期研修カリキュラムの目的と概要

外科専門医を標榜しようと志す医師が卒後2年間の初期研修後に、外科専門医資格習得に必要な要項を充足できる事を目的とした2～3年の修練カリキュラムである。

従って、本カリキュラムは、基本的な診療技術や術後管理法を理解、習得した臨床初期研修終了後の医師を対象とし、外科専門医制度による認定専門医必要な修練事項を満たすとともに、さらに専門化された外科系のサブスペシャリティ(消化器外科専門医等)への修練も兼ねたものである。

本院は、日本外科学会認定施設、日本消化器内視鏡学会認定施設および日本消化器外科学会指定修練施設、日本大腸肛門病学会修練施設として登録されており、これらの学会の認定専門医の修練の場を提供することが可能である。

2. プログラム指導体制

外科指導医8名

	氏名	資格	
第一外科部長	河原 正樹	日本外科学会指導医、専門医 日本消化器外科学会指導医、専門医 日本消化器内視鏡学会指導医、関東支部評議員 日本大腸肛門病学会指導医、日本臨床外科学会評議員 東京ストーマリハビリテーション研究会世話人 日本がん治療認定医機構暫定教育医 消化器がん外科治療認定医	指導医
医長	杉下 岳夫	日本外科学会専門医 日本消化器外科学会認定医 日本大腸肛門病学会専門医 日本消化器内視鏡学会専門医、指導医	指導医
医長	瀧野 陽子	日本外科学会認定医・専門医	指導医
医長	児玉 俊	日本外科学会認定医・専門医	指導医
医長	高田 厚	日本外科学会専門医	指導医
医長	館花 明彦	日本外科学会認定医・専門医・指導医 日本乳がん学会専門医、乳腺専門医 日本消化器外科学会認定医 日本消化器内視鏡学会認定医・専門医・指導医 日本医師会認定産業医、日本臨床外科学会評議員 日本医師会認定健康スポーツ医 マンモグラフィ検診精度管理中央委員会読影認定医 日本がん治療認定医機構暫定教育医	指導医
医長	小林 洋明	日本外科学会専門医	指導医
医長	塩入 利一	日本外科学会認定医・専門医 日本消化器外科学会専門医 消化器がん外科治療認定医、日本消化器内視鏡学会専門医 日本消化器病学会専門医、日本乳癌学会認定医 マンモグラフィ検診精度管理中央委員会読影認定医 日本がん治療認定医機構がん治療認定医	指導医

3. 手術症例数と内訳

年間手術症例総数 約800例

肝・胆道・膵: 約100例

結腸・直腸: 約150例

胃・食道: 約80例

乳腺・内分泌: 約100例

呼吸器: 約50例

大血管: 約10例

4. 研修内容と到達目標

一般消化器外科のみならず、呼吸器外科、乳腺内分泌外科、小児外科(成育医療センターと提携し、2ヶ月間の研修を設けている)、血管外科領域も幅広く研修し、外科学一般にわたる理解と造詣を深め、外科的技術の修得と、実践的臨床の場において直面する問題を自ら解決する能力を養うことを目的とする。

さらに、指導医の適切な指導の下に学術集会にも積極的に参加して発表する経験を積む事を課している。臨床的な研究活動を通して、論理的な思考能力と、知識と知見を体系的にまとめあげる能力を習得することを目的とする。

(到達目標—各論)

消化管悪性腫瘍、乳腺悪性腫瘍、呼吸器悪性腫瘍の標準治療を実施することができる。

内視鏡下手術(胆のう摘出術)、ヘルニア手術等を実施し自らマネジメントすることができる。

急性腹症(消化管穿孔等)に対応する事ができる。

病態生理を理解し、それに応じた適切な術前・術後管理ができる。

集中治療を必要とする重症患者の管理に習熟する。

疾患別に必要な検査(内視鏡検査、超音波検査、CT 等)を理解し、これを予定、実施する事ができる。

カンファレンス、その他の学術集会に出席し、積極的に討論に参加あるいは発表することができる。また、発表した内容を指導下に科学論文としてまとめあげることができる。

スタッフ、コメディカルと協調し、チーム医療を実践できる。

外科診療における適切なインフォームドコンセントを得る事ができる。

ターミナルケアを適切に行うことができる。

ジュニアレジデントや学生に診療の指導、教育を行うことができる。

以上の到達目標は、外科の指導責任者で構成するカリキュラム運営委員会を定期的開催し、修練医の習熟度や指導体制のチェックを行い、それに応じて適宜評価、改善、変更されるものである。修練医は均等な教育の機会を与えられることを原則として、協議を重ねるものとする。

【認定施設】

認定	認定番号
日本外科学会外科専門医制度修練施設	第130057号
日本外科学会認定医制度修練施設	第13086号
日本消化器外科学会専門医制度修練施設	第13064号
日本胸部外科学会認定医認定制度指定施設	第41－1582号
日本消化器内視鏡学会認定指導施設	20050038号
日本大腸肛門病学会専門医修練施設	
日本乳癌学会認定施設	第3127号
日本手の外科学会認定研修施設	第10048－01
日本がん治療認定医機構認定研修施設	第20226号

四国中央病院

【消化器内科】後期臨床研修概要

1. 病院紹介

当院は病院名と同じ四国中央市(人口 95000 人)の地域中核病院です。四国中央市は瀬戸内海に面し、気候は温暖で、名前のとおり四国4県の中央に位置し、四国の東西および南北に走る高速道路の交叉する場所にあり、交通のアクセスは非常に恵まれています。また、JR予讃線川之江駅から徒歩10分です。平成22年3月末を目標に、愛媛県と協力し、同市内にある県立病院との経営統合を目指しています。現在より一回り規模の大きい病院になる予定です。

2. 消化器分野の最近のトピックス

H20年4月に内視鏡センターを開設しました。内視鏡室は4室となり、スタッフがそろえば年間10,000件以上の検査が可能となりました。(平成20年度実績:上部消化管内視鏡約4500件、大腸内視鏡約3000件、ERCP、ESTetc、胆・膵系の検査治療、約100件)。また、平成21年3月からは、当地域では最初に64列 CT を導入し、CTcolonography をはじめ、画像診断の領域が広がりました。臨床研修にも応用が可能と考えています。更に、PACS が導入されフィルムレスとなりました。それに合わせ、3台ある消化管レントゲン装置のうち2台を動画対応の FPD を備えた新機種に入れ替えました。また、レントゲン内視鏡室には、天井走行可能なレントゲン、内視鏡液晶モニターを設置し、両モニターを同時に同じ視野で観察可能となり、ERCP、EST 等の検査、治療が楽になりました。消化器分野の臨床研修環境がほぼ整いました。

3. 研修目標

消化器および内視鏡学会専門医を目指す。これらの学会医研修カリキュラムを遵守。

内視鏡の技術力向上を目指す

当院では関東中央病院でシニアレジデント研修1年終了した、2年目、3年目の先生方が対象となります。研修期間が限られており、効率のよい研修が必要です。そのためには、まず技術の習得、向上が第一に挙げられます。この時期が技術力アップに最も適しています。当院では内科6名、外科3名、非常勤医師2名で月から金曜日までの午前、午後に内視鏡検査、治療内視鏡を行っています。土曜日は泊ドックの上部消化管内視鏡検査(約20から22名、1回/4-5 Wの当番(2名)が当たります)を行っています。当院のような地方の中規模病院では、シニアレジデントの先生方は貴重な戦力となりますので、指導医の指導にも自然と熱が入ると思います。

(1)2年目シニアレジデント

- 外来 週1回
- 病棟受け持ち患者数 10~15名:赴任後3~6ヶ月(病院に慣れるまでの期間は指導医と共診)
- 内視鏡:上部 15~20 件/W,下部 12~15 件/W その他 ERCP、EUS
指導医と協力し内視鏡治療(止血術、EIS、EVL、ESTetc.)
腹部UST etc.
- 学術:研究会、地方会、全国学会発表 年1~2 回 論文:症例報告等 1 編以上

(2)3年目シニアレジデント

- 外来 週1回 腹部UST 1回/週
- 病棟受け持ち患者数 10~15名:赴任後3ヶ月(病院に慣れるまでの期間は指導医と共診)
以後は一人持ち。ジュニアレジデントの指導

- 内視鏡：2年目以上の症例数を独力で行う。治療内視鏡も指導医と協力し可能な限り独力でできるようにする。
- 学術：研究会、地方会、全国学会発表 年2～3回 論文：複数例をまとめた症例報告。限られた期間ではあるがテーマを決めた論文（例えば早期がんとNBIなど）

4. カンファレンス

- 内科カンファレンス 毎週火曜日（チーム医療の充実を目的に病棟、外来看護師も参加）
毎週金曜日 副院長病棟総回診
- 内科、外科合同カンファレンス 隔週（病棟、手術室の看護師も参加）

5. スタッフ

消化器内科

氏 名	職 名	資 格
洲脇 謹一郎	副院長	日本内科学会認定医・指導医 日本消化器病学会専門医・指導医 日本消化器内視鏡学会専門医・指導医
柴 昌子	部長	日本内科学会専門医 日本消化器病学会専門医・指導医 日本消化器内視鏡学会専門医・指導医 日本肝臓病学会専門医
友兼 毅	医員（H13年卒）	日本内科学会認定医 日本消化器内視鏡学会専門医
若山 克則	医員（H13年卒）	日本内科学会認定医 日本消化器内視鏡学会専門医
多田 早織	医員（H14年卒）	日本内科学会認定医 日本消化器病学会専門医 日本消化器内視鏡学会専門医

消化器外科（外科学会関連資格は外科プログラムをご参照下さい）

氏 名	職 名	資 格
三浦 連人	部長	日本消化器病学会専門医 日本消化器内視鏡学会専門医・指導医
松山 和男	部長	日本消化器病学会専門医・指導医

6. 認定施設

- 日本消化器病学会専門医制度認定施設
- 日本消化器内視鏡学会指導施設

【外科】後期臨床研修プログラム

1. 後期研修の目的と当院外科の概要

当科は、徳島大学消化器移植外科の関連施設であり、日本外科学会専門医制度修練施設、日本消化器外科学会専門医制度修練施設、日本消化器病学会専門医制度修練施設に認定されており、日本外科学会専門医、指導医、日本消化器外科学会専門医、指導医、日本消化器病学会専門医、指導医、日本消化器内視鏡学会専門医、指導医、日本大腸肛門病学会専門医が、消化器、一般外科を中心に、末梢血管外科、内分泌外科（乳腺、甲状腺）、呼吸器外科をおこなっております。身体に対する負担が少なく、入院日数が短縮できる鏡視下手術（腹腔鏡、胸腔鏡）を積極的に導入しています。血管系（大動脈瘤、閉塞性動脈疾患、下肢静脈瘤、乳癌や子宮癌術後のリンパ浮腫など）は加藤名誉院長の専門分野であり、全国各地から紹介患者さんを多数受け入れています。

平成16年4月徳島大学臓器病態外科（旧第一外科）田代 征記名誉教授が病院長として当院に赴任されました。田代院長は肝、胆、膵外科では日本でも有数の高名な外科医であり、当科の肝、胆、膵の悪性疾患の手術が急増いたしました。

平成21年4月、森本忠興徳島大学乳腺外科名誉教授が病院長として赴任され、乳癌患者さんのセカンドオピニオンをはじめとして、高度先進乳癌診療が提供できると考えております。瀬戸内の温暖な気候の下、専門性の高い外科修練が可能です。

2. 指導体制

外科指導医4名

氏 名	職 名	資 格
森本 忠興	病院長	日本外科学会専門医・指導医 日本乳癌学会認定医・専門医 日本腫瘍学会暫定指導医 精中委認定読影医
三浦 連人	部長	日本外科学会専門医・指導医 日本消化器外科学会専門医・指導医 日本消化器病学会専門医 日本消化器内視鏡学会専門医・指導医 日本大腸肛門病学会専門医 検診マンモグラフィ読影認定医（評価A）
松山 和男	部長	日本外科学会専門医・指導医 日本消化器外科学会専門医 日本消化器病学会専門医・指導医 検診マンモグラフィ読影認定医
木下 貴史	医長	日本外科学会認定医・専門医

3. 一般目標と到達目標

社団法人「日本外科学会」外科専門医修練カリキュラムに準じる。

4. 教育関連行事

曜日等	内 容
毎週 火曜	外科症例カンファランス
毎週 金曜	外科カンファランス
月2回	内科・外科合同カンファランス